

エクササイズ名	「あいさつゲーム」「どっちがすき?」「あたたかいことばかけ」
授業者	学級担任 教科担任 ()
対象者	幼 ① 中 高 大 一般 (その他)
学年 人数	1～6 年 男子142名 女子209名 計351名
実施月	4月、7月、1月
実施場面	全校集会
ねらい	友達とうまくかかわって、気持ちよく過ごす(他者理解) 感情をコントロールする方法を知り、自分を見つめる(自己理解)
出典	小林正幸・相川充編著「ソーシャルスキル教育で子どもが変わる」(図書文化) 大竹直子「自己表現ワークシート」(図書文化)
(アレンジした場合) ねらいと変更点	全校集会として学期に1回、朝の活動の時間に。月一回は学年や学級で道徳や特別活動、朝の会や帰りの会などの時間に行うように計画し、行った。挨拶をすることを要に友達と関わるスキルを身に付け、相手や自分の気持ちに気付ける児童を目指した。
作成上の留意点	1年生から6年生の活動ということで、学年をこえて仲良くなれるような内容を考えた。
ワークシート等	あり(添付してください) なし *実施計画を添付
時間	朝の集会時(8:05～8:20)
流れ	*別紙参照
生徒の様子や感想	4月～初めは緊張したけど、挨拶をしてなかよくなれてよかった。 7月～自分と同じ考えの人がいて嬉しかった。他の人の考えが聞けて良かった。聞こえる声で伝えることが大事だ。 1月～みんなにいいところを話してもらって嬉しくなった。これまで一緒に活動してきたよかった。
ねらいの達成度	5 ④ 3 2 1
良かった点	・教師には各月に使用する資料を配付し活用してもらえた。 ・「なかよしタイム」として取り組んできて、子どもたち同士が自分の考えを相手に伝えようという意欲が見られてきた。
改善したほうが良い点	・朝の活動という短い時間だったので、振り返りまで進むことができないときがあり、教室で行うようにした。時間的に厳しかった。 ・教師からは、「配付された資料が多く、どのエクササイズを行うのが効果的なのか、重点的なものを知らせてほしい。」との要望があった。
実施の際の配慮事項	・モデルをしっかりと行い、活動の抵抗をなくするようにした。 ・エクササイズの流れを担当教師同士で共有し合い実施するようにした。
これから実施しようとする人に一言	全校での取り組みは、各学年や各学級の実践が土台となるので、SGEを取り入れての指導を実践しているクラスがあれば、全校でもうまく流れると思う。底辺をいかに育てていくかが大切。